

## E-4 起居様式に関する実態調査

広島大教育 菊沢康子

目的 同種の調査研究は昭和40年に1度なされているが、それからすでに10年経過しており全様式のイス化がさらに進んでいると思われることから、①イス化の各機能空間毎の実態追求、②イス化も進行させる要因追求のための実情把握を行うことを目的とした。

調査方法 福山市内およびその周辺の中学校2年生の家庭の母親582名を対象としアンケート用紙を配布し回収した。有効回収数は496名であった。

結果1 (調査対象の属性) 勤労者世帯75%、世帯主平均年齢44才、核家族75%、平均家族人数4.5人であった。調査対象の住宅は持家75%、民間借家12%、給与住宅11%、公営借家2%であった。建築年は1960年以降のものが74%を占め、住宅規模は20~39坪のものが55% (平均31坪)、部屋数は平均6室であった。

結果2 (各機能室の実態)	食事室	団らん室	接客室	子供室	夫婦室	老人室
㊶ 部屋の広さ(畳)	5.7	6.1	6.6	5.8	5.9	5.8
㊷ 専用室の割合(%)	15	67	84	99	90	95
㊸ 洋室化の割合(%)	72	16	59	35	9	2
㊹ イス化の割合(%)	75	81	61	89	50	5
㊺ イス使用の希望(%)	70	27	57	69	21	12
㊻ 暖房主要器具	ストーブ	ホムコタツ	ストーブ	ストーブ	ホムコタツ ストーブ	ホムコタツ